日刊 動労千葉
79.4.27
No.103

国鉄動力車労働組合
千葉地方本部
千葉市要町二-八（動力車会館）
（鉄電）二二五八～九・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

4/28～5/1「本部」暴力集団の組織破壊攻撃をうちくだこう

動労「本部」、春闘完全放棄の大裏切り！

七九春闘は交運・公労協の四月二五日決戦ストによる電々を除く二公社五現業九六四一円（五・六三％）という妥結額でその最大の山場を越した。

この七九春闘の結果を見るならば右傾化がますます強まる中で、既成指導部の限界は明白となり、全電通の「脱落」等八〇年代へ向けて日本労働運動の「激動」はより明確なものとなっている。

とりわけ、「他労組批判」を売りものにし、「総評を左からのりこえる」などと呼号していた動労「本部」が春闘の拠点決定すらも「国労に一任」と称して、完全放棄し、厳しい状況下にありながらも「統一地方選」や「七九春闘」勝利のために地道に闘おうとしていた全国の多くの動労の仲間を完全に見捨てたばかりか、さらには、ただただ動労千葉破壊の為にのみ、メチャクチャな引きまわし動員にあけくれていたのである。このような歴史的裏切りを徹底的に弾劾しなければならない。

「動労千葉」の実力の前に、遂に国鉄当局をして、事実上の「認知」へおいこむ

【四月二六～二七日「動労千葉」単独闘争】

だが、われわれ「動労千葉」は公労協・交運のスト中止以降もスト準備指令を解除せず、大巾賃上げとともに、われわれが今春闘の確得目標とした「労働基本権確立」へ向けた闘いを継続し、動労「本部」の国鉄本社・権力更には「他労組」への必死の哀願や「圧力かけ」を粉砕し、「動労千葉一四〇〇名の団結と実力」をもって遂に『動労千葉こそが、千葉の地において動力車職場に働く労働者を代表できる唯一の組織である』ことを国鉄当局に認めさせることをかちとったのである。

（スト指令解除は四月二六日、〇時三〇分）

われわれは、実力をもって堂々と「労働基本権確立」の闘いの突破口を切り拓いたのである。

動労「本部」の卑劣な〝スト破り策動〟もあえなく破産

われわれの前進に顔色を失った動労「本部」は『動労千葉がストに入るときは、国労、動労で力を合わせB変仕業などどんな手段を使ってもスト破りをやろう』と恥も外聞もなく国労に哀願し、呼びかけたのだが国労と動労「本部」がどんなにスト破りを画策しても総武・中央線の電車の七割はストップ（すなわち、首都圏全部がパンク）するという歴然たる現実から逃れることはできず、スト破りをやりたくともできず、あえなく破産してしまったのである。

4/28～5/1 破壊「オルグ」を粉砕せよ！

この動労千葉の労働運動の原則を踏まえた着実な前進に恐怖する「本部」暴力集団は、四月二八日～五月一日、再び「オルグ」と称する動労千葉破壊襲撃を全国動員をもって指令した。

来るなら来い！　この間の攻撃、とりわけ「4・17津田沼支部襲撃」以降、わが職場は燃え上って続々と「団結署名」が進み、「支部結成大会」が勝ちとられてきている。

また、一握の幹部の卑劣な裏切り行為が発生した銚子支部においても、スト期間中を通じての交流・オルグの中で前進を開始し、多くの団結署名が結集されてきている。

一四〇〇名の組合員の皆さん！　あらゆる英智・戦術を駆使してこの破壊襲撃をうちくだこう。

結成大会つぎつぎと成功

津田沼（4／18）、館山（4／19）、新小岩（4／21）、の支部結成に続いて、各支部結成大会がつぎつぎと勝ちとられている。

二四日、千葉運転区支部結成大会

4月24日、千葉運転区講習室において動労千葉・千葉転支部の結成大会が開催され、方針案、予算、規約等を満場一致決定の上、永田支部長以下の支部役員を選出した。

二五日、木更津支部結成大会

春闘決戦ストを第一陣で闘いぬき、ひきつづき十二時四五分、講習室に勤務外の全組合員が結集し、団結署名一〇〇％を最先頭で達成した支部にふさわしい戦闘的気迫の中で結成を宣言、斉藤支部長以下の役員を選出した。

二六日、勝浦支部結成大会

勝浦支部結成大会は四月二六日九時より勝浦運転区講習室で関川委員長を迎えて圧倒的にかちとられ、窪田支部長以下の役員選出を完了した。

再三にわたる「本部」・暴力集団の職場襲撃など、あらゆる組織破壊策動と全員が身体をはって粉砕してきた自信に満ちて、熱気あふれる結成大会となった。この日までに「団結署名」は、支部員総数一四六名中一四六名を完了した。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！